

寄せられた意見

No. 8

受付日	H17. 2.24	年齢	47歳	居住 市町村名	下川町
件名	天塩川の河川整備について				

【意見】

下川町は、昭和20年代から植林を行い、山づくりを継続しています。にもかかわらず、近年の大雨では、一気に川の水が増大します。自然のままの山が良いのかもしれませんが、人間は生きていかなければならず、生活するには必ず何かを犠牲にしなければなりません。魚を捕って食べる。動物を捕獲したり飼育して食べる。野菜を栽培して食べる。米を栽培して食べる。などなど・・・

山からは、木と山の食材をいただき、橋を造り、家を建て、紙を作り、そんなふうを利用してきた結果が、山の保水力を下げることとなったのではないかと思います。関東大震災のときには、下川町の山から復興材として木材が相当量搬出されています。山は遠くの都市の復興にも使われてきました。

植林や育林を継続し山づくりを進め、山の保水力を高めることは、山を利用した私たちの責任ではないでしょうか。

しかし、山造りには長い年月がかかります。最近の異常気象を考えると、100年に1度の洪水を想定した治水のためのサンルダム建設を進めることは、人命尊重の上で、大変重要なことです。100年に1度の洪水が起これば、中流域、下流域に暮らす住民への被害が甚大になるだろうことは、だれもが想像出来ると思います。川上に住む住民として、サンルダムの必要性を認識し、建設を促進していくことが必要です。

【理由】

流域の安全で安心な生活を守るために、ご尽力されている関係者の皆さんに感謝するとともに、地元住民として建設促進に協力、応援したいからです。